

令和5年度第2回地域密着型サービス運営委員会 報告書

日 時：令和5年7月12日（水）13時30分～

場 所：米子市福祉保健総合センターふれあいの里 4階洋室

出席者：委員（5名）※敬称略

遠藤太一（委員長）、高野和男（副委員長）、増田孝之、吉田みつ、長岡文代
事務局（4名）

足立長寿社会課長、大櫃介護保険第二担当課長補佐、荒松介護保険第二担当係長、
秦介護保険第二担当主任

傍聴者：3名

議事内容

（1）小規模多機能型居宅介護事業所への移行希望事業所について

看護小規模多機能型居宅介護事業所から、看護師の人員確保が難しいため、小規模多機能型居宅介護事業所へ転換して事業を継続したいという申し出があったことについて米子市より説明。

（委員）

ニーズがあり将来も事業ができるということで開設し、事業を行ってこられたと思うが、職員確保が困難という事業所側の都合での変更である。職員の確保も含め、当初から将来を踏まえて運営を続けていくのが事業者の責任であるので、米子市は指摘、指導を十分に行い、同じことが起こらないようにしてもらいたい。

（委員）

利用者は、年齢とともに看護も必要になるのではないか。

（米子市）

サービスが低下しないように事業者と協議していく。

給付費は去年は伸びていない。要因を検討して、もしサービス提供を増やすということであれば、従業員の問題について検討が必要。人材確保については、9期の策定委員会の中でも取り上げていく予定である。働きやすい職場、限られた人材でも継続して働ける手だてを考えないといけない。

（委員）

歯の専門職についてはどうなっているか。親族が亡くなる前に、歯をとともきれいにしてもらえたが、常時してもらえればよいのと思う。

（米子市）

フレイルも歯の健康が関係しており、市の課題と考えている。フレイルチェックも課題で

あり、意見をもとに対応していきたい。

(2) 令和4年度地域密着型サービス公募選定事業者についての経過説明

(米子市)

令和4年度に湊山、東山、美保中学校区で認知症対応型のグループホームを2箇所公募した。

2法人から応募があり、両方を選定した。1法人は6月に事業所を開設したが、残りの1法人はまだ具体的に進んでおらず、着工していない。

進んでいない法人については、応募書類の内容が、地元自治会への説明や了承について事業者として不十分だったが、選定審査では必須項目ではなく評価項目だったため、書類を却下せずに受理し、審査を進めた。

密着委員会で2回審査し、地元への対応や説明について、不足部分を補うように条件を付け、果たされるものという前提で選定した。現在、結果として進んでおらず、事業者と協議する中で、場所として道路が狭い等あるので、あらためて良い場所に変更することは可能かという問合せがあった。

鳥取県に補助金対象事業の建設場所の変更について確認したところ、米子市の給付計画に変更がないのであれば可能という回答があった。市としても取り下げて新規としてではなく、計画の変更を行いたい。

地域との関係や結びつきは事業所の指定時には必須であり、選定時の条件については、開所までにクリアされるべきものという認識である。当初、市としてもうまく確認できていなかった。

(自治会の方と)話をしたが、市も不十分で、2月23日の合同説明会でも進展しなかった。このまま進めても地域密着型の事業所として運営できるのかということだったが、事業者から建設場所のみ変更することは可能かという話があり、地域との関係性についての計画について変更がなく、合意形成ができるのであれば変更してもよいのではと考えている。

市としての指導や説明会、また密着委員会が必要ということなら開催して検討したい。

(委員)

昨年度の選定時の密着委員会で、地元協議の部分について十分でないという意見があった。介護保険上の手続きとして瑕疵がない中で、補助金交付のこともふまえて、付帯条件を付けて引き続き理解を得るということで承認すればいいのではないかということになった。道路の件は最初から分かっていたことで、地元との協力がうまくいかず、将来的にトラブルが発生するのではということから変えると言っていると思わざるを得ない。ここの地域にこのサービスが少ないから持ってくるという考え方であり、近くではなく遠くに持っていったらその地域は結果的に充足されず、前提が崩れる。業者や米子市の対応に満足できず、怒りを持っておられるので、同じことになりかねない。全く違う所であれば、全く別

物、違う話で、更（白紙）にして考える必要があるのではないか。

(米子市)

聞いている場所は湊山校区で、土地の利便性は悪くなく、前面道路は県道で地域交通に影響は出ない。地元との合意形成については同じ過ちをしないよう言っている。変更ということで扱いたいと考えており、計画が決まれば密着委員会でも示したい。

(委員)

もともとその場所でやるということで補助決定している。(変更を)認めるのはおかしく、疑問に感じるのではないか。そこの地域が必要があると考えてやろうとしていたのに、こういうことが起こったから(公募の)3校区であればいいという考え方なのか。

(米子市)

立地の範囲として広くとらえている。

(委員)

新しいところでいいのかと思う。選定したのに言われたから変えるでは納得できない。

(米子市)

(グループホームは)待機者がおり、施設は充足していない。まず施設を建設して待機者を減らしたい。場所については希薄なエリア内に誘導していくという観点で公募している。東山、湊山、美保で公募したのでそのエリア内での変更であれば対応したい。

(委員)

(入所する側は)空いていればどこでもよいと考えるのは分かる。ちゃんと計画してやらないと、(今回の事は)わかったことではなかったのかと思う。

(委員)

地元の方は、グループホームが来るのは歓迎している。ただ説明や誠実な対応ができていないことに対して米子市も含めて憤りを覚えている。地元の方々は歓迎しているのに、話がこじれたからといってよそに逃げるのは納得されないと思う。近い将来きちんと建てるという話をしながらでないと思感を持たれる。

(委員)

自治会と(ここでは)やめるという話はあるのか。

(米子市)

事業者から話すが、今までの経過もあるのでそのような話があることは報告した。

(米子市)

施設の充足については引き続いての課題であり、今後の9期計画では今回の事をふまえて整備計画を考えていきたい。

(委員)

市からも一緒にきちんと住民に説明したほうがよい。今後、また同じことが起こりかねない。

(米子市)

今後、公募のやり方や条件を見直し、密着委員会に諮りたい。

(委員)

認めないという話ではないが、具体的な地元との対応を見ながら、あるいは更（白紙）ということだと思う。補助金が決定しているから進めるというのは、住民の立場では納得いかないと思う。(施設の) 充足については十分理解できるが、「地域密着」なら（住民を）大事にしていけないといけない。

(米子市)

事業者の計画ができ次第、変更部分について密着委員会に諮る。

(委員)

今のところは何とも言いようがない。

(委員)

認知症の方は他の方と交流がある方がよいと聞く。症状が人によって違うが、グループホームではどうなのか。かみ合わないとかはないのか。

(米子市)

共同生活で、一緒に過ごす。本人独りでは生活できない方が地域と交流しながら事業所で人らしく生活していくのがグループホームの目的。

(委員)

今の段階ではあらためて十分な説明を行い、変わる場所にも合意形成が必要な事を事業所と市に受け止めてもらいたい。

(3) その他連絡

令和5年度の地域密着特養の公募について、1法人から応募があったが、運営している施設で大規模改修が必要なのが分かり、そちらに専念するため取り下げられたことを説明。